

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36602	
事業名	相談支援パートナー事業費						
評価担当課	所属名	教) 学校教育部 教育相談担当課					
	課長名	太田大輔	担当者名	小清水俊介	電話番号	011-671-3249	
施策名	主	子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	・不登校児童生徒等の登校状況や質的な状況の改善を図る。 ・相談支援パートナー等の対応・支援により登校状況に改善が見られた児童生徒の割合 R3:73.2%				
		長期	・不登校やその心配のある児童生徒の学校復帰や不登校状況の改善を図る。 ・不登校の未然防止や早期対応の取組の充実を図る。				
	取組内容	・不登校やその心配のある子どもに対し、一人一人の状況に応じたきめ細かな支援を行うため、相談支援パートナーや相談支援リーダーを配置し、不登校の状況改善を図る。 ①全中学校、中等教育学校における相談支援パートナーによる別室での学習支援等 ②相談支援リーダーによるパートナーへの指導助言、配置校での不登校児童支援 ③小学校(モデル校40校)における相談支援パートナーによる早期支援					
	実施結果	・相談支援パートナーや相談支援リーダーの対応・支援を受けた児童生徒数の増加(R2:1073人→R3:1360人) ・相談支援パートナーや相談支援リーダーが対応・支援した結果、登校状況が改善(R2:873人→R3:995人)対応・支援する不登校児童生徒数の増加により、相対的に登校状況の改善率は下がったが、120人以上の登校状況改善につながった。					
事業実施における工夫点	相談支援リーダーにモデル校を定期的に巡回させながら、不登校児童への効果的な支援の在り方等について各学校に指導・助言している。						
対象者	不登校やその心配のある児童生徒(小中学生)			開始	平成24年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	なし						
他都市の状況	岡山市、広島市、福岡市への調査では、本市の事業と同様に、地域に根ざした多様な人材を活用し、不登校及び不登校傾向にある児童生徒への対応を行っている。						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	89,563	106,000	99,326	121,000	
うち特定財源	100	78	66	60	
人工	2.0	2.0	2.0	2.0	
人件費	14,400	14,400	14,400	14,400	
計(事業費+人件費)	103,963	120,400	113,726	135,400	
事業費の内訳	令和3年度決算	会計年度任用職員報酬(共済費含む) 29,094千円 相談支援パートナー報償費 68,482千円 その他の経費 1,751千円			
	令和4年度予算	会計年度任用職員報酬(共済費含む) 23,384千円 相談支援パートナー報償費 92,368千円 その他の経費 5,248千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	相談支援パートナー等の支援により登校状況が改善した児童生徒			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	81.40%	90.00%	73.20%	90.00%	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	相談支援リーダー・相談支援パートナー配置校数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	128校	148校	148校	205校	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援パートナーの活用率は94.21%(報償費に係る執行額÷予算額×100)であり、多くの学校で相談支援パートナーを有効に活用している。</li> <li>相談支援リーダーや相談支援パートナーが支援を行った児童生徒数は1,360人であり、そのうち登校状況が改善したのは995人(73.2%)である。</li> </ul>			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校40校(モデル校)に相談支援パートナーを配置し、支援を行った児童生徒数は前年度から増加している。今後もさらなる検証を進めながら、不登校の未然防止や初期対応の重要性から小学校への相談支援パートナーの配置に向けて検討する。</li> <li>小学校への相談支援パートナー配置による支援の効果が高いことから、中学校における不登校状況の改善に繋がっていくことが期待できる。</li> </ul>			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校への相談支援パートナーの配置に向けて、モデル校における相談支援パートナー活用の効果検証を継続する。</li> </ul>			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援リーダーや相談支援パートナーの関わりによって、登校状況の改善だけではなく、友人や教員、保護者等との人間関係が改善するなど、質的な状況が改善したケース(重複回答可)が1,669件あり、昨年度より大幅な状況改善が見られた。</li> </ul>			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校への対応だけではなく、未然防止や初期対応についての重要性にも目を向け、小学校への相談支援パートナー配置に向けての検討を進める必要がある。</li> <li>小学校のモデル校と関連の中学校への進級後の推移についての検証を検討する。</li> </ul>				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援リーダーによる、小学校40校(モデル校)の巡回訪問及び不登校等の実態把握を行った。</li> </ul>		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の相談支援パートナー配置に向けて、モデル校における効果検証や全小学校の不登校の実態把握を進める必要があるため。</li> </ul>				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校への相談支援パートナー配置をさらに推し進める方向で検討する。</li> </ul>			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容の効果検証を踏まえて、適切な予算措置を行う。</li> </ul>		見直し効果額	0